



婦女鑑

三

9  
3924  
3





門 9  
號 3924  
卷 3



婦女鑑卷三

目錄

鈴木宇右衛門妻

雋不疑母

厚瓦徳の妻

拔婁

貧老嫗

擔水夫惹克面の妻

利禰

維匡

婦女鑑卷之三 目錄 〇一 宮内省藏

早稲田大學圖書館  
藏 29.4.23  
書



馬理夫人

以撒伯拉額拉罕

安那

少女馬利

撒拉馬丁

維爾孫夫人

特多里蒙

瑣妮

聚侃

以利沙伯弗來

額黎坦林



婦女鑑卷三

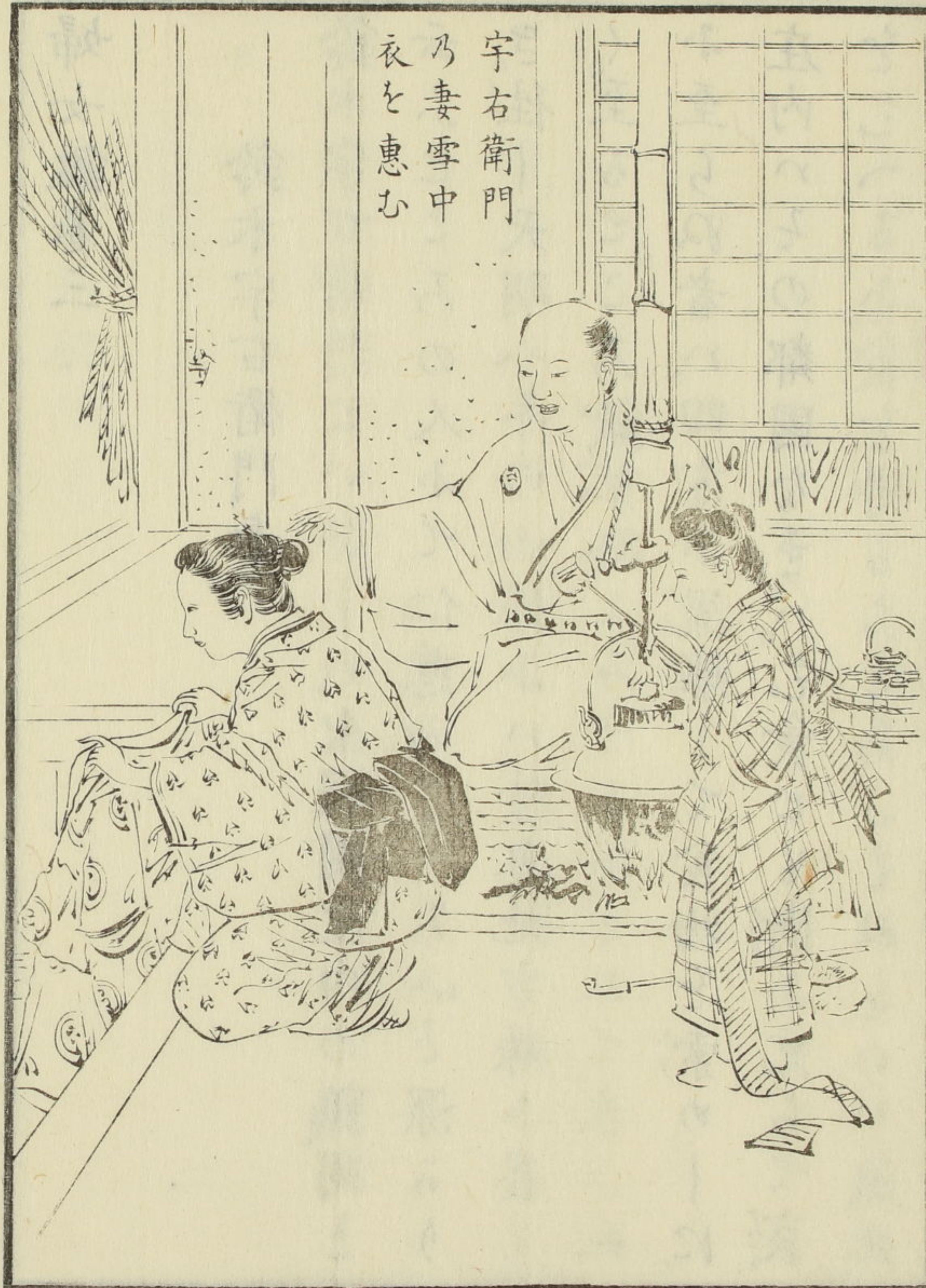
鈴木宇右衛門妻

鈴木宇右衛門といひし。出羽國庄内の鶴岡と云ふところの人。仁慈のこころみと深ありき。往し天明八年の凶作。陸奥地方殊小甚く。至るところ餓莩路よみてるやどふて。未ぞ死小至らぬ者。四方小流離して食物を索めしに。庄内はその鄰國なき。乞食ども街小充ちて哀を乞へる小。食を得るおとあさぬ。その餓死





楓湖



宇右衛門  
乃妻雪中  
衣を恵む



するふより。鶴岡の人々みか力を盡してこれを  
 救へり。中ふも宇右衛門を。原小走役といへる微  
 職ふ有りて。いさゝか此金錢をも貯へければ。職  
 を辭し。自ら耕へてくらゝけるふ。かゝる慘狀  
 をこゝるふ忍びず。家財雜具いふまでもなく。所  
 有の田圃をも賣りつくして。力の限りこきを救  
 ひけり。夫かくの如くおまゐ。其妻もおあトこゝ  
 ろふ。その身の衣服手道具まで賣り拂ひ。僅僅又と  
 れ着着のきぬ二襲二襲のと遺せるを。或日此衣をも救  
 恤モトテの資資も充んと云ふを。宇右衛門聞きて。およそ

女子の愛するとのい衣服なるを。今悉く賣りて  
 人命を救えん。實ふ殊勝おまゐども。女を男と違  
 ひ。外小いづる小着替小着替の一襲もならん。ほい  
 おまゐさるべけま。そのたもひやと祿とい  
 ふ。妻おまゐへて。さればこそおまゐをも賣らんと  
 心づきたま。着おまゐへの衣あまゐ。外小出んこゝ  
 ろもおまゐ。外よ出んおまゐ。ほあれが。櫛簪櫛簪も存し  
 ねあでいかなま。今着替を賣りて外に出ん念  
 を斷ちおまゐ。櫛簪も無用の物なり。これ無用のも  
 のをも何れも賣り拂ひおまゐ。此上も數多の人



をも救ひ得らるべし。とて竟小のこゝろおくりりて飢人小施せり。かくて何くる春の始ぶる小至り。或日雪深くふり積り。山風ふきすさびて寒さ堪へぶたき小。十一二歳むかひ此少女。飢急疲て門小立ち食を乞へり。肌小を海松のおとくやぶきたるひとへの衣をまとひたきば。戦ひころえて目もあてらまねば。妻をみる小たへず。今年十二歳なる娘を呼び。そかこい綿入の衣をニツ重ねて暖る小着たるを。何の子のさぶを見よ。いと不便ならずや。年もそなると同トなとなれば。

衣のゆき長もほどよかるべし。をちや暖なる時節小向へむ。何まり寒うらずい。その衣ひと川を脱ぎて。あの子小あへよあし。といへむ。娘もあころよく諾ひて。上小着たるよ紀衣を脱ぎてあたへしあば。夫婦とも涙を流して喜びしとぞ。  
 雋不疑母  
 漢の京兆尹小雋不疑といふ者あり。それ母いと仁慈のおるあつく。法々しみあらくして。よくその子を教へさとしけり。されば食事のひまなど。かりそめのそのおつりよも無用の事をい



ならず。まづ起居進退言語までをさかきそのく  
 模範となるべきやう。くくろをもちるなり。當時  
 官吏の權威いと嚴をかふして。罪を得るそのた  
 ぼし。不疑の母ハ常又これをいたとなげきけり。  
 雋不疑京兆尹となりて。その管下をめぐり。風俗  
 を正し。囚徒を録して還りし時なども。親しくあ  
 りしやうとをとりひき。て。冤枉を發き。疑を  
 きを釋し。過ちを改めしめし事などあまは。  
 喜びあまひて。飲食言語といとあまらるよげなる  
 を。あまふ反して少るも宥恕するおとなりければ。

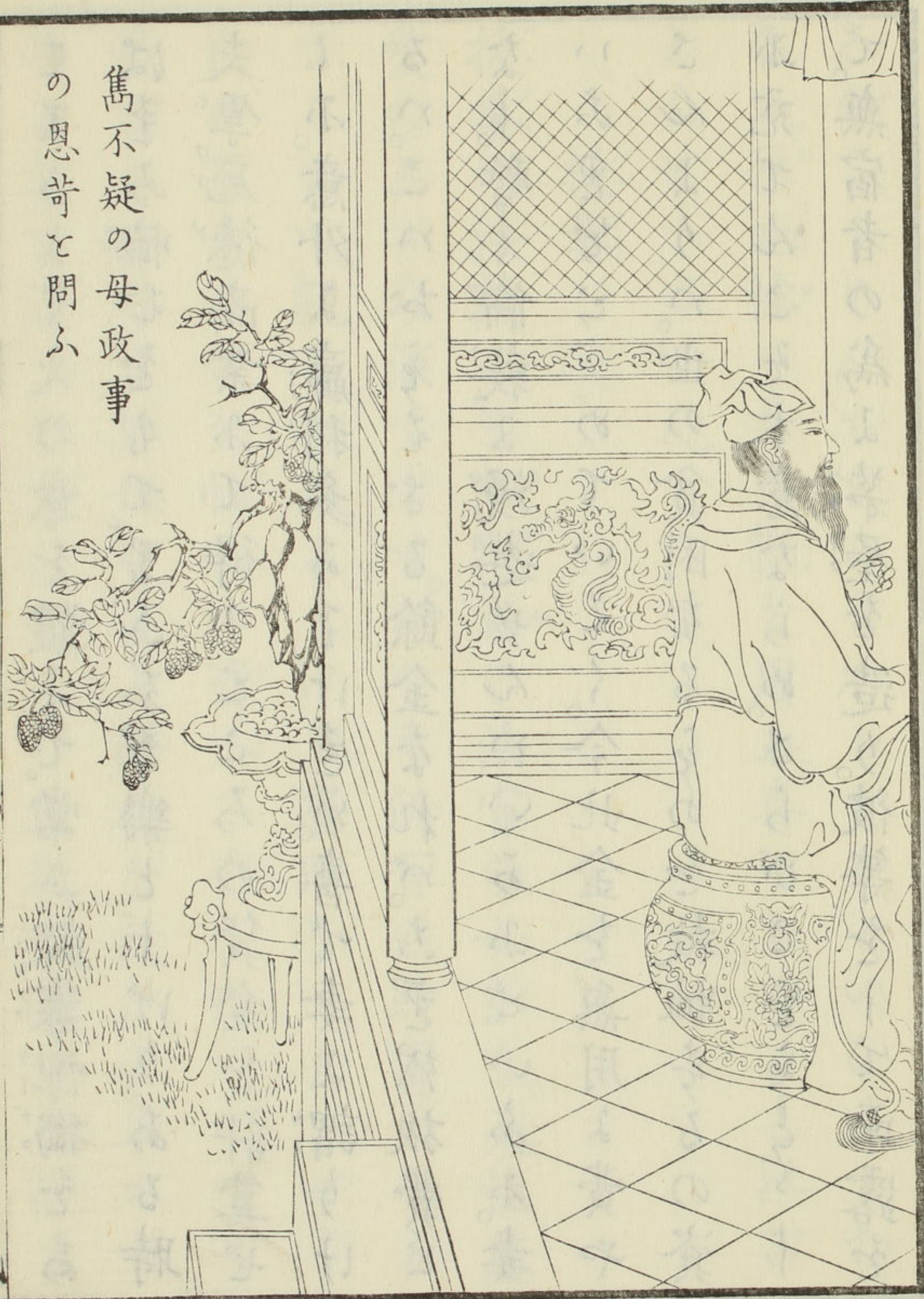
怒の色あらされて。あまふを為しそのをもくまざ  
 りけり。故に不疑よく母の心をあまらるとして。下  
 をとさめしむ。法令寛らふして。苛刺ならぬ。人  
 民その徳に信服して。為めし生活するそのいと  
 多し。時の人これをきて。不疑の法令の寛らなる  
 を稱して。その母の善くこま教ふるお  
 由るおと。あまらざりけり。不疑の母を上天好  
 生。といふくくろを體するそのといふべし。

厚瓦徳の妻

厚瓦徳ハ。英國に於て有名なる仁恤者なり。其妻



雋不疑の母政事  
の恩苛と問ふ

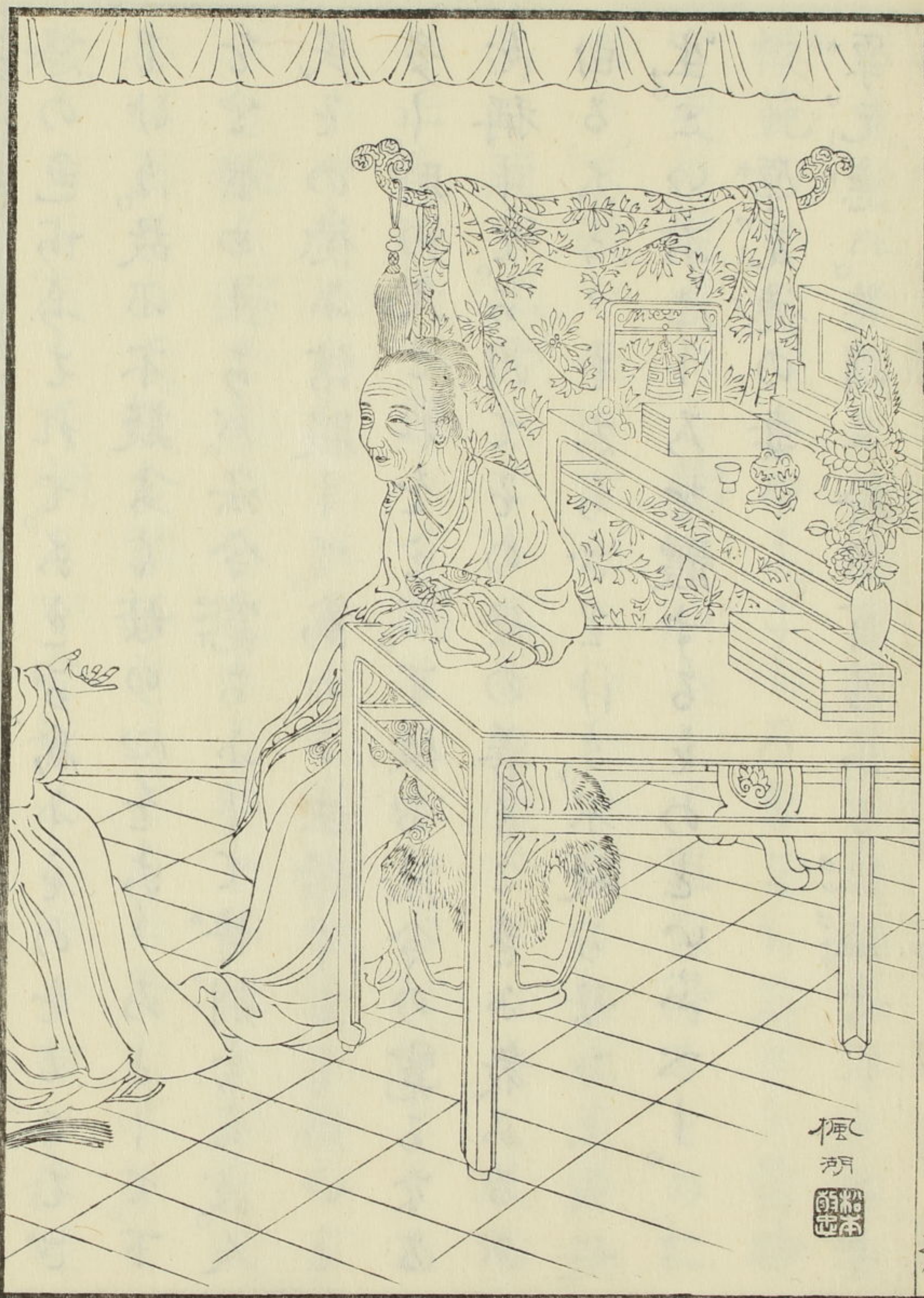


婦  
女  
鑑  
卷之三

〇六

宮内省藏

婦  
女  
鑑  
卷之三



楓  
明  
印

宮内省藏



もまよよく夫の意を體して。常小鰥寡惻獨をあらはさみ恤むをもて。まよふなき樂と一けり。ある時夫厚瓦徳商業ふて得しところの貨金を計算せし小意外の贏利多ありけき。喜て妻を謂りける。このおとをさる餘金なれば。おき旅費となし。暫く倫敦に漫遊せんといふ。妻はおきをどづめていそぐ。今此金を無用の費やさんよりの。世の貧困なるを救恤するの資小充てんこそ本意ならぬ。さらばこをえとくして。無宿者の爲に茅屋を造り。彼等をして雨露を

志のあしめんをまよふからずや。といひすむる小。厚瓦徳の妻の勸を用ゐ。喜てそのこととおとくせしといふ。

拔 妻

拔妻の。法蘭西の加阿爾の法官の女あり。天性慈愛のあつる深くして。おのを所有の財寶はとよりよて。親より譲り受けし資財をも。あませく世の不幸の者を恤むの資本ふあてたり。かいつく教育と勞力と併せうる學校を設け。少年の女子よ書を讀こならはせ。又耶蘇教の義理を説き



きうせなどいと懇ネン小教養一けり。されば拔婁ハルと同志の女子三人までありて。力を添へ。其他小も世の慈善を好むもの。らを賛助サシするもおほかりけり。ある時人ありて。拔婁ハルと謂カりけるい。卿キを喜びて薄命の小兒を教育をさるとみづうら此任とおせば。世の慈善を好むるもの。卿キを為す多少の資力を遺ナるものもあるべけきと。こものざりあまば。限りおきの薄命者を悉く救恤せられんおとおが法のなく。おをいのふしたまふお。と問ひける小。拔婁ハルの事もおげよ。おのをよの依頼

さるものをは悉く救ひ侍らんとぞ答へける。されば此他も。あるを貧困の不具者カ。まはハ姓ニ婦おとふ物をあたへて。おを救恤スとこをを勞ムむり。あるを囚獄ヒを訪ひて罪人を慰諭ス。おれをして従容死し就しりむるなど。常人の厭ふ事をもいとはずして。おのを此務ツとしけり。おをせしかど小一人の婦人の死罪を決するを。その刑期小臨むまでさおぐ小慰諭せるは。終に悟るところあるが如く。拔婁ハルを向ひていひりるい。吾も三人の女子あり。若しこれを養育したまら

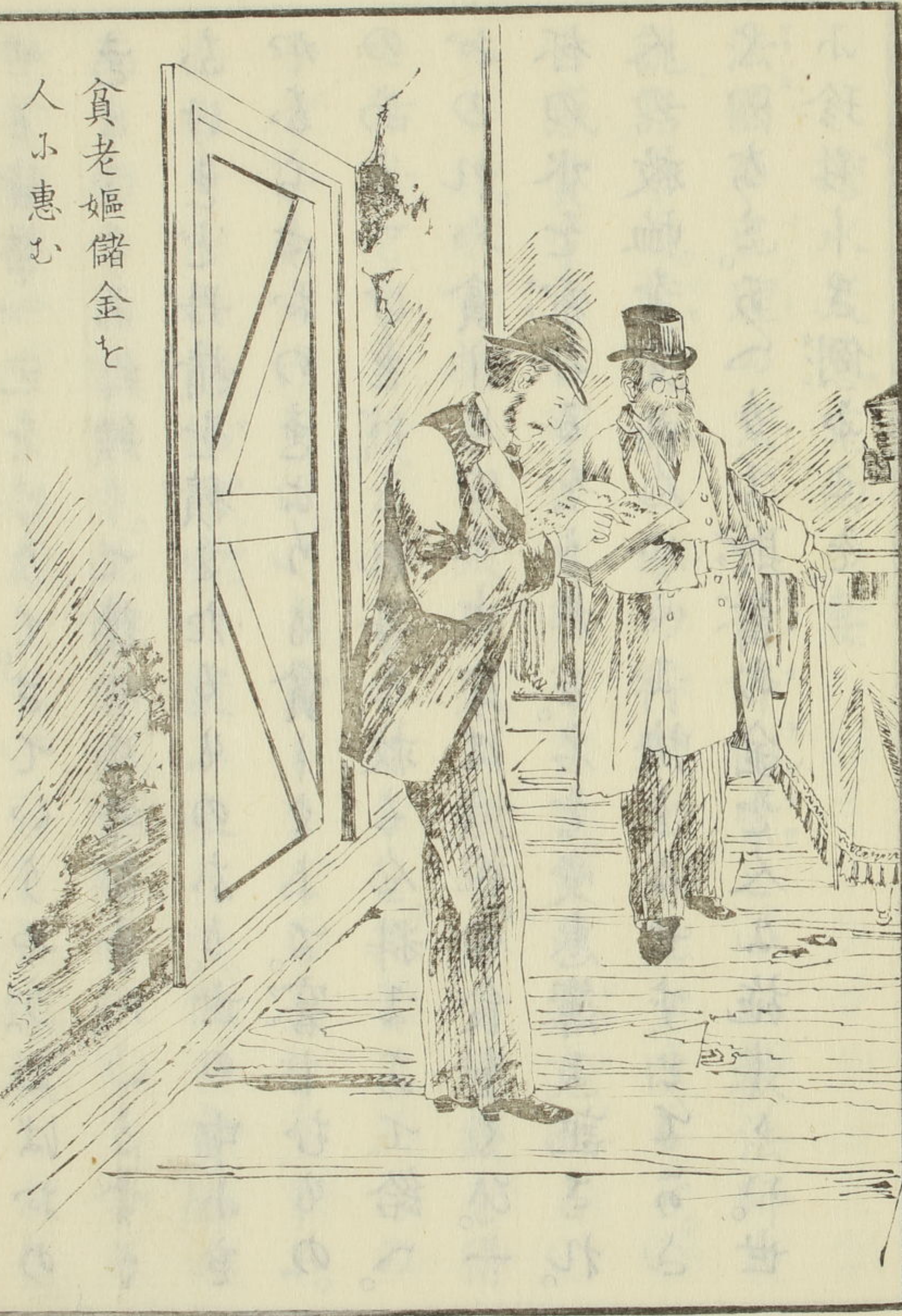


む。他よれもひ置事あり。願もくもこをりあへた  
 まはんやといふ。おやうさ此人。罪人の兒子を養  
 ふの厭忌まるごころかるを。拔婁をみるよく  
 こをを諾ひ。この三人の女兒をわが家小つきの  
 へり。これを教へおき試導びきて。法ひ小各正業  
 よつありめた。かくのおとき美事善行を積むも。  
 かへりて他の見聞を憚りて。おのづからその事  
 蹟の世小著るる。おとある時を。却てこををう  
 さおとよおをへりいごど。

貧老嫗

法蘭西國小救恤社とて。貧民を扶助するの社あ  
 り。ある時その社の役員。市街を巡りて窮乏の者  
 を調査しりる小。一の貧家小ゆきて家内を覗ふ  
 2。一人の老婆の紡績して他事なきさまなるも。  
 四壁の咸く壊れて雨風も凌ぎがとささまなり。  
 そのうへ家具とて。僅る小一二脚の椅子と卓  
 子のこなるを。これをもよやをそこなまれて。その  
 の用小たつべくもよえざりけり。さればその役  
 員。家内よいりて老婆の名をとひ。受惠簿小登記  
 せんといふ。老婆これをきく。やぶてたちて密封



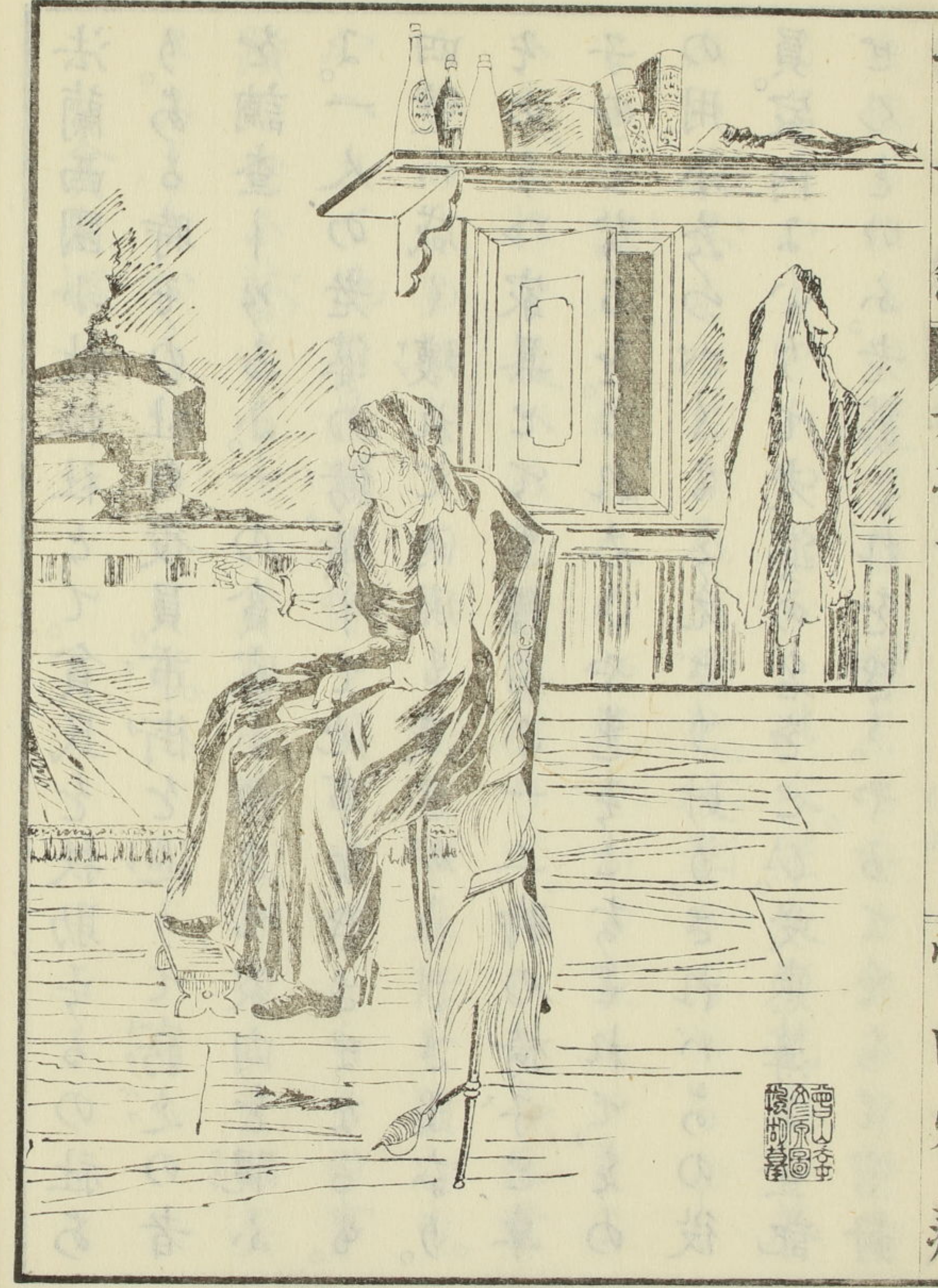


貧老 儲金を  
人小 恵む

婦 女 鑑 卷之三

〇十

宮内省蔵



會山幸  
檢印

婦 女 鑑 卷之三

宮内省蔵



せる貨幣一包をとりて。さていうやう。こはおの  
 まじりぐる紡績して獲しものなきば。いとすく  
 かけまど丹精を積きたるものあり。世の中ふを  
 かからずおのまよりも貪しくして。害しむもの  
 のあるべけまば。それ等を救えん料もあて給へ。  
 おのれい貪しといへど。なほ一碗の食をくひ。一  
 杯の水を索むるをうれど。名を受惠簿も記され。  
 人の救恤を受らん心は快しとせず。とてあこ  
 くいなき。あへりて貯蓄の金を人よ施し。い。世  
 小珍らしき例ふこと。

擔水夫惹克面の妻

フランスの巴理の京よて。桑佛郎索といふ教法師の  
 説話中。小惹克面の妻の行状をりたりける。い  
 と感賞すべき事ごも多ありき。その惹克面とい  
 へるい。水を擔ひる人の家よ販り。その賃錢を得  
 て活計とする賤しきものなるを。其妻も三人の  
 子さへありけまば。いと貪しきらなり。いふ  
 ある日その妻佛郎索の家小來りて。他の貪婦の  
 爲よ助力をこへり。此時佛郎索問ていむ。今を  
 の貪婦をいづく小ありていなる縁故よより。



彼を爲す救恤を索むるふり。など詳小問ひあき  
らめける小。惹克面の妻をこれ小答へていそぐ。  
今爲す救恤を請ふ所の婦人を。その名を彼得兒  
といひく。さいつころ路のうへへ小ありて。初ハ  
二日三日の間宿借らんことをこへりし小。今ハ  
そや十月ばありしもやなり侍らん。されど他ハ  
ゆくべきところもあらば。食ふべきものも何ら  
ねバ。あきを逐ひもあつおしのびず。おき等夫婦  
ハひさぶるよ。勞作してうるところの瑣少の賃  
錢を以て。兒子を鞠ひ。食ハ粗よしてその量を増

し。ともぐよわあちらへり。さておき等住ま  
るところの家を。僅小ニツの室あるのとふて。家税  
ハ年ハ凡百四十夫朗ハ圓二十を拂へども。爲す彼  
得兒ハ他日辨償さすべきの約をなさず。又それ  
等夫婦ハいゝ小貧困ハ陥るも。勞動を甘んじて  
敢て他人を煩ハさず。といと屑く答ふるも。佛  
郎索ハその志を好して。金若干をいだしてあそ  
へられバ。惹克面の妻を涙を流して彼得兒ハ爲  
小こきを喜びたり。かくて佛郎索ハ彼得兒ハ爲  
よはありて。おきを貧院ハいらしめき。そもく惹



克面クツの妻を。それ身の貧賤なるをも顧みカヘリて。他人の困乏を憫アハレむおとかくの如く。衣食住を共トして。十餘月の久キき小及べるも。始の志をシつて。恤アハレと憫アハレと。世人の龜鑑ともなすべきことならずや。ごぞかカり聞キるせし。

利稱

利稱リネハ。巴理府パリの市街シヤウまで。いとちひさ紀家の二層の樓上ロウジョウより望ノゾみまひし。勞力ロウリキしてその日をおくりけり。年久ネンクしくまづマくクて。家具カグとして。一の臥牀シヤウと。一の椅子イシと。耶蕪ヤウの畫像ガクの額一面ガクとを存

せるのとなれど。常トに善を為ナすおとを樂タノシしけり。かゝるやど小毘利ヒリといひて。もと驛遞局エキテイクの吏員シの妻メなりし。今イマを寡婦カハメとなりて。いと便タビな紀をの。隣室リンシツに寓居ユウキしけり。それレの生計シヤウケイとしてハ。毎月メイゲツ僅ワザよ三十夫朗フラウシヨウの世祿セロクを有アてるのニよシて。いとカすカるカお暮ムしけるカ。年老ネンナウいて不起フキの病ヤメに罹カり。旦夕タンシツもばバりバたタし。加之カシいと痛イタまマくク憫アハレむべきは。この毘利ヒリよひとりヒトの女メありけるカ。聾ムシヒ小て。そのいふことあアとトねネバ。これレを扶タ助トするものあらアざる時トキを。生活シヤウカウするカことをえエず。故ユに

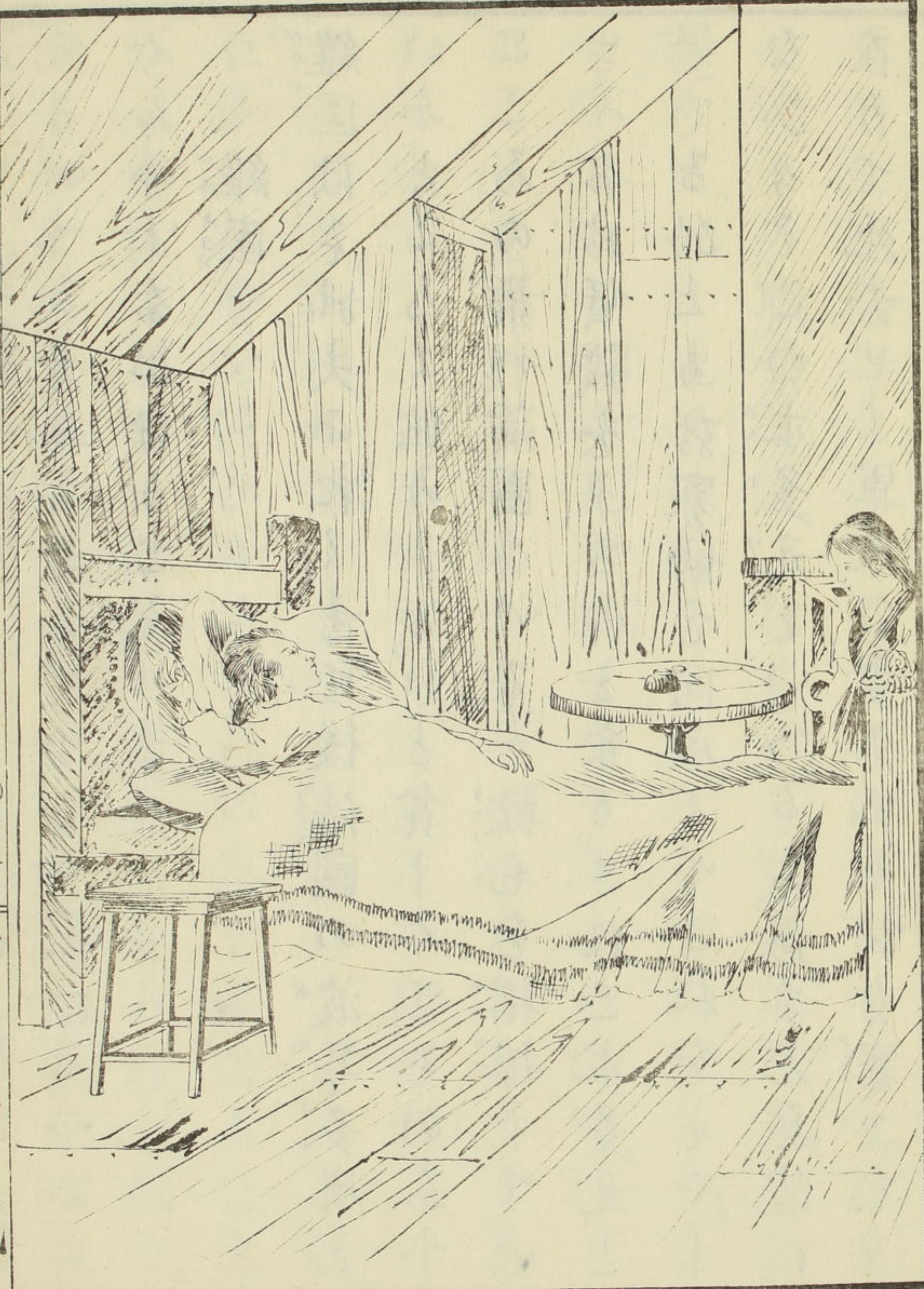


毘利此事のとおあゝるをあやめて死よて後も  
瞑目することあゝるぬやとなり。利禰これをこ  
る小忍びず。毘利を説諭してそのこゝろを安ん  
ど。代りてこの不幸の女兒を養育せんことを證  
しける。毘利始てこの苦惱を免ま。終よ臨きて  
女兒を利禰に托し。やぶて身まゐりけり。おの後  
利禰は此女兒をわら室小伴ひ歸り。たのぐ所  
用の卧牀をば。これ小與へてねんごろおいは  
り。その身は勞力の時間と増して。十八時間とな  
り。ひとふるよこの女兒をいとほしみあをれむ

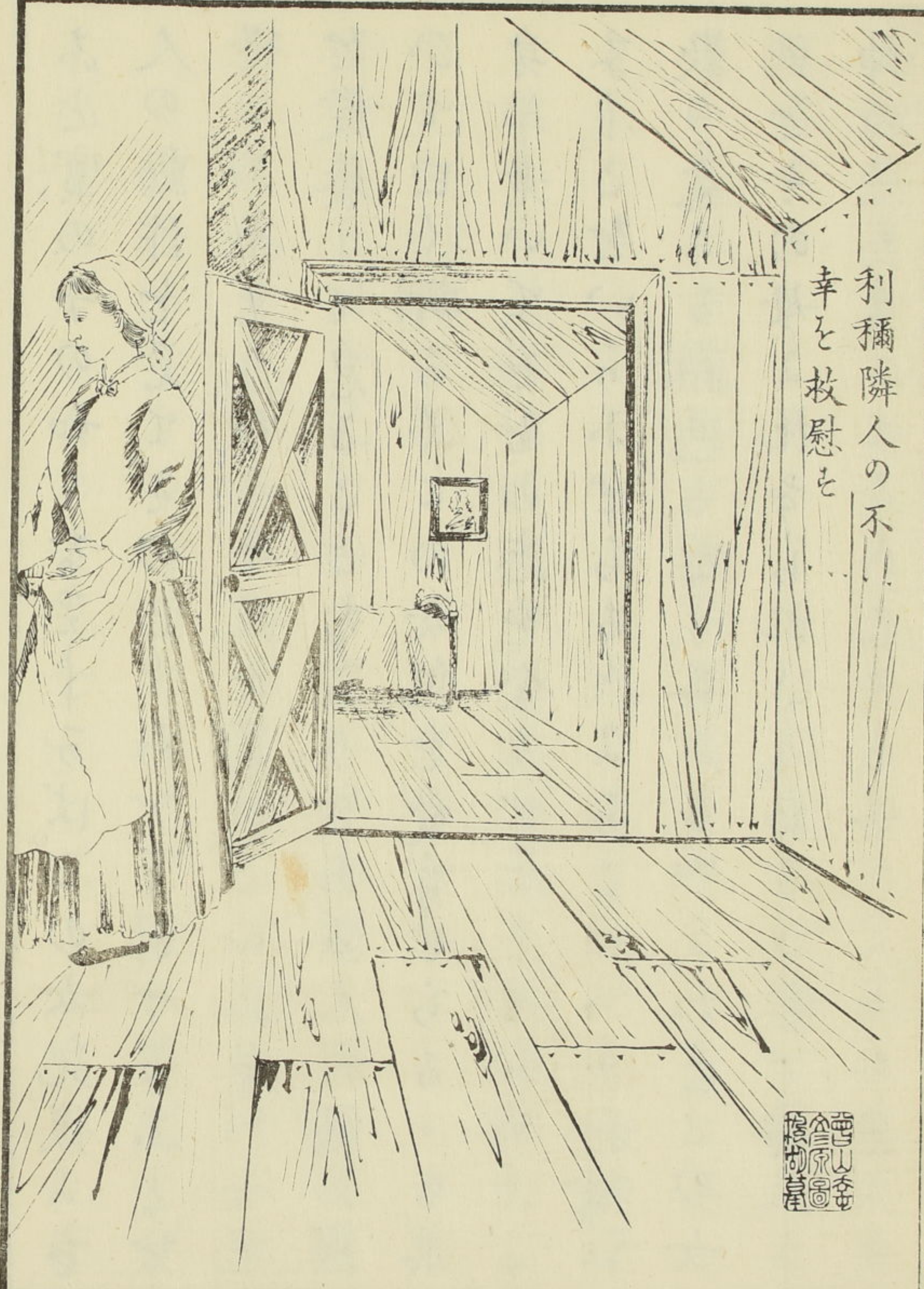
おと實の子の如くおまゝにば。この女兒。後よち  
人の動作を見て。そのこゝろを了解するおとを  
得る。小至まり。かく年月を累ね。この不具の女兒  
を愛養して怠ることなほりき。ある人利禰小問  
ひて曰く。卿はくこの女兒を愛育せらるゝも。其  
身年老いてち。その志を全うせんことおがはら  
まし。こをいゝおせらるゝよといへど。利禰は  
歎き慮らる。顔色もなく。答ふるやう。わまこの女  
兒をその母に托せられし。わぶらとを養ふる  
神のえたまふところなり。と答へて。その身六十



婦  
姑  
鏡  
老  
之  
三  
宮  
内  
室  
藏



〇十五



利  
稱  
隣  
人  
の  
不  
幸  
を  
救  
慰  
を

曹山  
金原  
繪  
物  
堂

婦  
姑  
鏡  
老  
之  
三  
宮  
内  
室  
藏



五といへる老年よ至るまで。こゝろひとつおめ  
ぐみゆゑあひけりどぞ。

維 匡

維匡は。それ夫おれくまて後。法國の波耳多府と  
いふところよ住みお。いと貪しくて。そのあす  
どころの業の。蒲團よいる。獸毛を摺擦して。い  
さゝるおれ賃錢をうるのとなり。されど求多瓦と  
いへるひとあ。能寡婦と同居して。これをとや  
なひ多。この求多瓦といへるを。ある老兵院に  
在りて死去せし軍人の妻よて。それ身蹇よなり

て。自ら生活をるおとあたをぬ不幸者なり。維匡  
も素より職業よ乏しけむ。それ故郷巴理府お  
還りて。他よ生活の道をえんことをおへど。こ  
の不具なる求多瓦を棄て去るおのびず。さり  
どくおを旅伴あをんよを。一步もあゆむことあ  
たをね。こゝろお任せむ。それうへ路の程もい  
とをほく。山川の險しきをこえていへらんよは。  
巨多の旅費をほひやさむれば志を遂ぐること  
何しとぞ。さりとして貯蓄の資金あるおあらね。お。  
いのおともをん便なり。あゝる困難のをりから



なまども。ひとたびおをひたちしことなれば爲  
 又志を更へず。悉く所有の家具を賣りばらひ。こ  
 れをもちて。ひとつの小車をひきとめ。これお  
 求多瓦を載せ。みづゝら牽きて旅立しけし。あ  
 て山阪をこえ遠きとゆく程。或を食物をうる  
 ことあははで。飢も困もあははるも。こまを  
 のび。村里小いでくい食。その代を人よこひて。  
 辱をうくるもこれお堪へ。日と累ねてはるあ  
 る旅路。いいで。愈前て愈困難を増しけし。ある日  
 暴<sup>ニハカ</sup>黒雲蔽ひ雨風烈しくふり注ぎ。たちよるべ

き木陰だふあらねば。困苦たとへつたさやどな  
 るも。これを凌ぎ。辛うして安具廉といへる市街  
 小達せるころ。雨をやうやみたまど。爲小道路  
 は深田のおとく。そ此身を車に共み泥濘の中よ  
 陥りて。進退くく谷まり。汗ぬきひちたる滴  
 と共み流き。息喘へぎとこゑもえしてぬれどな  
 まば。路ゆく人もこせえく憫をあらぬいあらざ  
 り。此時美拉といへる貴婦人の。道をのらこ  
 の状をえを深く何もまこと。志をこころまりてそ  
 の故をたがねとひ。委<sup>ウヅ</sup>あふそのよしを聞て。こ



あつた金若干を何とへ。又ところの太守よこひ  
 て。旅費食物などを給せしめ。且護送の證書をさ  
 へ與へられしめ。竟に巴理府に到ることとせえ  
 て。おとひし如く爲すべきの職業をえ。ホ多瓦と  
 共ふありて。いとゆたあふらしけり。このホ多  
 瓦は維匡ウキヤウよりの齡ヨビ既ふ長けたるも。維匡ウキヤウふいと  
 ねもおろなる恤ウレをうけ。あつ波耳多府ハルタより意を  
 決して巴理パリに來り。そは目的を達したりし徳を  
 稱して。母とよび。常ふこれが爲ふ將來の幸福を  
 祈りしとぞ。

馬理夫人

馬理マリハ。金斯敦キングストン公耶物倫エドワードの長女なりて。一千六百九  
 十年に生えしり。幼より才智ありければ。その父  
 之を見え。他の男兒と同し教師ふは々々學問を  
 しめしめ。それ進歩著るしりて。最も古學グセウに卓絶  
 たり。父これを喜びて他の交際を断らしめ。倍ツツあ  
 れる學問を勧めけしめ。當時に生ふ及ぶものな  
 し。あつて一千七百十二年に。義徳瓦蒙エドワード・モンテグに嫁し。  
 共ふすして閑ヒラの世をおくりけり。若耳治チャールズ第二  
 世。英國の王位に即くふ及びて。夫の義徳瓦官途



小就さしつゝ。其の倫敦ロンドンへ行て住こけるほど。その才能の人よ絶えつゝと。姿容シヨウの秀美なると小て。世人の尊敬する所となれり。さきば羅馬の教皇アウグチン亞底孫。其他の有名なる著述家も之と往來して。懇切なる交を結べり。一千七百十六年。夫義徳瓦ワ土爾格の在留公使に任せられて。赴任せしむるに。相伴トキナひてこの地小赴き。をりく論説文章を新聞社など小投書せしむ。世の賞讃を得て。當時婦女の著者よてハ。第一等とど呼せける。又活潑剛クワッパッ膽タン小して勇氣ありつゝと。後世小最も大なる功

徳を遺して。不幸に陥るゝのを救ひけり。その夏日別谷ベルグ拉ラに在るころ。此國の慣習よて。小兒小痘モ瘡カサを種ウケゑて。其輕症小感せしめ。劇症と避くるの法よて。所謂一種の種痘法よて。其功著イサシクありとれ。馬理マリハ之を奇オキしこ。心を用ゐて經驗せしむ。果してそ此効コトヒを得たをば。信シトて疑ウタガハせず。わが子の三歳なる男兒よこれを施したり。さて歸國の後。隨行ズイギョウを醫師として。之を國中よ廣め志シとせし。諸學士の間よ議論おこりて。政府よても決キりなねられ。試シよ死刑よ決キりたる五人の囚



徒を擇びてこれに施し、十分の結果をえて、終之を國中に實施すること、をなせり。されど當時には頑迷固陋の世の中あり。何事も改良進歩を忌むこと甚しく、馬理の爲よ世人の嫌悪する所となりて、困難を被りしことひとかちらむ。凡庸の醫師を兵器をとりて、頑迷を訴へ、固陋の僧徒に講堂を群集して、粗暴を極むるなど。その騷擾ひとかちならざりき。されど馬理はこれ等の障礙に依りて志を挫かず。堅忍不拔の勇膽を張りて、終に數多の賛成をえ、その志を果

たをことをえり。其間馬理の常小己の少女を携へて種痘者の家に至り、之を監督し、その少女を病者と同牀に置き、その傳染せざるを證明し、けり。抑痘瘡の邪毒を恐小するの時、方りて、人命を損ひ、容色を變じ、その慘狀人をして戦慄せしむるに至るを、馬理は此功績に因りて、この禍害を免あるを、おとをえしめり。洵に非常の大功績とぞいふべき。蓋し馬理は此舉に、彼著名ある醫師日内爾が牛痘種接の方を發明せしより、六十年以前の事なりといふ。



以撒伯拉額拉罕

以撒伯拉額拉罕ハ、蘇格蘭の人にて。一千七百四十二年小生じり。幼時厚く父母の教育を受け。生長して後、襄額拉罕といへる醫師に嫁して。四人の子を生じたり。其後夫より従ひて米國の加拿他よりゆき、駐まるおと四年よてあつを去り。安地卦に至りし。ふく夫を亡ひり。去て郷里に歸り。父と同居して。此地の貴女の教育に従事して生計を營む。老父と兒子とを養ひり。あつて一千七百八十九年よ。復び米國よりゆき。新約

克小止まりて女學校を開きし。その教則の宜きより。僅のやど小その盛大を致せり。この他以撒伯拉額功業いと廣くして。これを約めいへむ。寡婦會社。孤兒院。勸業會。孤兒學校等。諸の會社の發起創立者よりして。これら此爲よむ精神を注ぎ金錢を費むことをし。その資金乏しくして。教師を聘するおとあはぬとき。その身みづらら教授より従事して。いさゝおも厭ふことおく。世の公益を謀り。大功をたてし。おといと多く。又よく人を獎勵し。仁惠美舉よ力を盡さし。



ひるの才力も富みて。類まくなれば婦女なりけり。かく此如く常小真神を尊敬して。終身世の公益を謀りしむ。若この才力を轉じて。文學の事を用ゐしめば。亦非常の高名を得んおと疑ひなき。その平生の書信をみる小。文格極めて正しく。其詩も亦胸中餘裕ありて温雅なるおと。世人の及ぶ所からば。されば以撒伯拉い。自ら好て世の公益義務も力を悉さるるおのりて。文學詩作も一ころを用ゐる小。遑あらざりき。一千八百十四年の七月は生前の業を卒へ。ころ安くぞ身まか

りける。後その兒子等もよく母も倣ひて。仁恵を施すおとを好めりといふ。

安那

安那同多勒門い。巴理府の名高き狀師の子にて。一千七百四十五年は生をり。その母も亦聰明よりて大に安那の徳性を發育せしむ。安那いとはやく父母の家を出で。當時收税長の職小ありし。學熱勤といふその小嫁しけり。事繁き家にてその管理する所もいと廣く。交際も多端な



れど。安那アンナをみれを厭イヤふことなく。その兒子の教  
育イクも盡力せり。さきばわぶ子を親愛して。これ  
を教養するの餘徳を。他人の兒子も及びけり。  
安那アンナの父を育兒院の總理をも兼ねをば。常よそ  
の謂ふ所を聞くに。この育兒院と云へるも甚不  
完全のまのふて。數多の小兒を一室よ群集せし  
め。適當の食料を給するまにあさねば。よあら  
ぬ空氣を呼吸して。爲る病をえ。死ぬるものいと  
多きを。實デは痛イタしきまとなりと謂カるをきいて。い  
とあそれなるまとおねをひ。いあおもしてこの

不幸のまのを救えんとおまへど。巨多キョダの資金を  
要するまとゆる。一時よその法を設くるまにあ  
たまむ。されどねをひ止むべきまとならねば。こ  
ろろを碎クき思慮を廻らして救恤の方法をおも  
ひえ。之をある貴女キコノメよまかまし。此貴女を敬神  
慈愛の心深く。富貴を兼有カネタモてる人なりけむ。忽  
ち安那アンナの美擧と賛成して。力を悉ツさんことを諾  
し。これより巴理府の富有なる貴婦人等。お  
ほられたまへ。應卜て。諸事速ハヤに小整頓セイトンせしめ。お  
此時始めて婦人惠施會と云へるものを創設し。



衆力を一よりして不幸の兒子を救恤するの方法を立つる小至まり。かくて法國の王路易十六世及び其后馬利安兌業首として金幣を寄贈せしむ。一千七百八十八年よりこの會社の事務を施行してその成功をうる小至まるを惜むべきを。その翌年革命の戦争おこりて一時この會社も廢滅せり。この變はあまりて安那夫妻とも非常の艱難に遭ひ頗る勇壯活潑のはたらきをあらはしける小。夫は終に死刑に行われぬ。かくて後を一家の事よりその兒子の養育まで一ら

安那一人の身小あつまりけるも原より才智絶えし婦女なきは。祖先の財産を失はずしてよく之を保有し。數多の兒子を育てその愛敬を享けて。一千八百十三年に病に罹りて身まのりぬ。されど安那が生前小企圖せし所の救恤社に身と共に小涙ふるおとなく。後には拿破侖此法を用ゐて再興し。馬利路易撒が長となまり。又布爾奔家の回復する小及びてい。大小皇女の賛成をえて。會社の資本を増加し。こゝに始て安那の企圖せし如く。完全無缺の一大會社となまり。



少女馬利

馬利といへる少女を。法國のあるところの葡萄園の園丁の女なり。その年やうく十五歳むありのころ。郷社の祭日の近づきぬまに。其日着用すべき衣裳を買ひ求めんとおもひて。平生は勞力して貯へ置りる金を懐ふ。いと手輕小いで立て。あゝろよろこびうちいそだつ。兀素爾の街を過ぎ。ひとりの老夫の路傍小蹲て泣き叫び。いと困弊を極め。狀なるをえとめ。立とまりて。そをゆるぎよを聆き。心中深くこれを憫み。と

も小泣きて。わが身の衣を購ひ身を飾るの念を断ち。その金を出して老夫と與へ。竊におもふやう。この善行をなしたるの美しき衣着たらむよりは勝まるとおもひ。よろこびて家小あへかるとぞ。

撒拉馬丁

撒拉馬丁は。英國のいと貧しき人の女にて。をさかき時父母を喪ひ。祖母の手と鞠きて成長せり。祖母を聞斯多といふところ小住居して。裁縫職の助手となり。一日は貳拾五錢餘の賃錢を得て。



やうくその日を送るゝとなれば。其貧苦おもひ  
やるべし。かくて千八百十九年の事なりける。あ  
牙爾謀斯といふところの獄舎に。一人の婦人囚  
となりていぢられし。そをわのまに小兒を打  
擲し。及び欺騙拐帶などの犯罪を因る。あゝぞ  
聞えし。此時撒拉馬丁を裁縫場の職工して。年少  
さやどなりし。この事を傳へ聞て。いと痛まし  
き。あとおおもひ。いあふもしてこれを正道に導  
き。良心をかへらしめんと一途におもひおこし。  
數獄吏を請ひて。遂に獄中小いる。あを許され。

あは婦にあひて懇に説諭を加へし。あは。ほどな  
く前非を悔いて過を改め。ひさすら撒拉馬丁の  
教へ小隨ひし。あは。これを始りてこの職業の暇  
を以て。獄舎にゆき。多くの罪人を教へ導き。その  
苦患を寛うする事。一ら力を用ひたり。故に撒  
拉馬丁の罪人の爲ふを。實に導師として。且教師  
を兼ねたり。この時いなを罪人。法を説き。業を  
授くる等の設あらざれば。撒拉馬丁一己の力を  
以て。あるを書をよませ。文字を習ませ。裁縫その  
他の工業を授けて。倦むおとなく。自の神のおの



せを以て。なまじの給ふ職分とおもへり。されば  
 却てその本職とするかこをわたりあちよて。  
 活計よもさばる事あまど。意を決して志を更め  
 ず。まましく力と竭して罪人の教化に從事しけり。  
 かくするおと前後二十年の間。一日の如く法と  
 め。勸えしあば。おまふ化をられて頑陋無頼の徒  
 の。遂に良民とあるをその數をいらす。されど  
 此時まで一人の力を添ふるものもなく。これを  
 賞する人とてもあらざりしを。いやまておそこ  
 の地方官お聞え。その功勞を表して。年金貳十封<sup>ガ</sup>

度<sup>ド</sup>

元我百  
圓許

を與へられし。初に固辭して受ざり

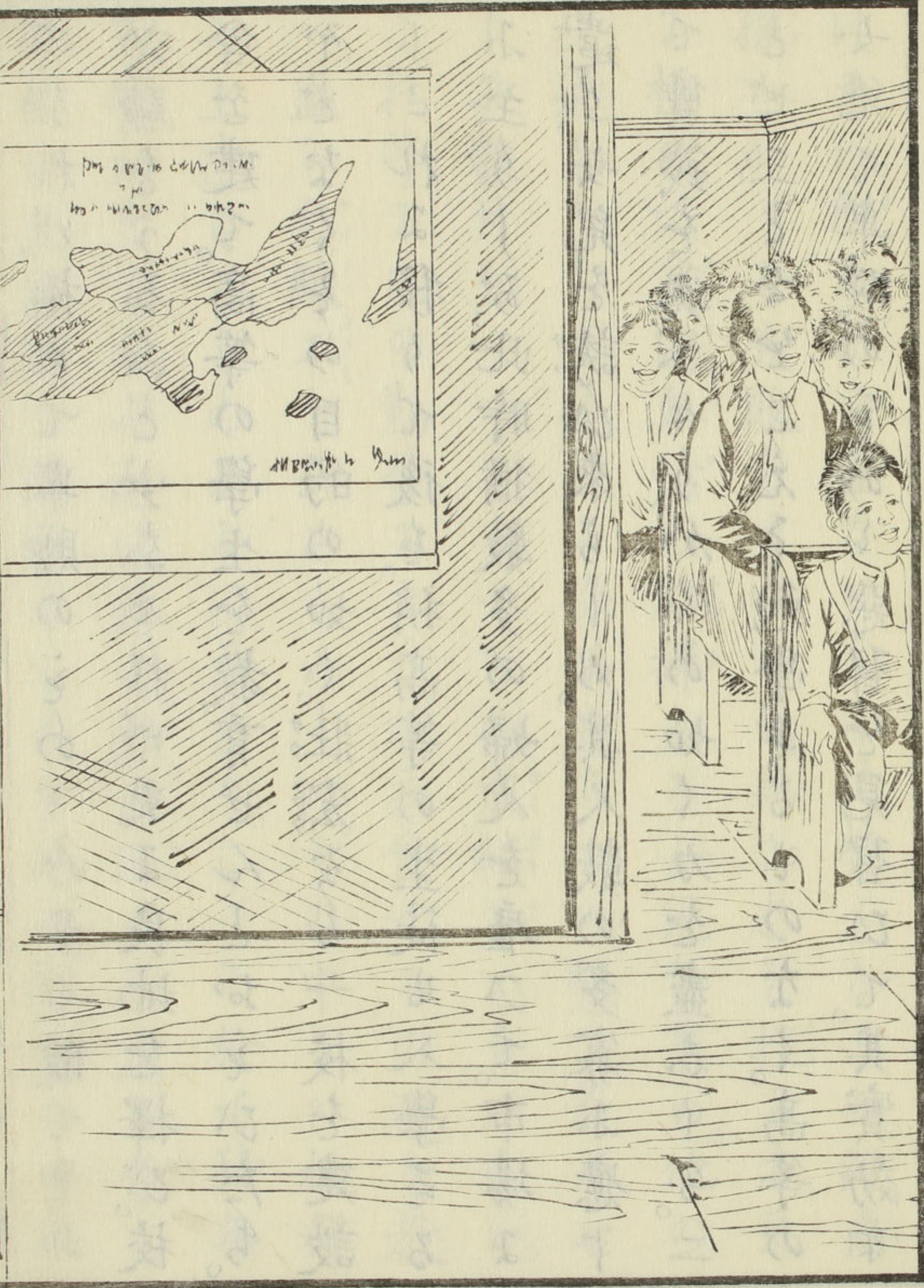
しを。種々説きおめして遂に給與せらまけり。後  
 二年おかりありて病に罹り身おのまし。その  
 病牀にありても。神徳を頌するの詩を作りて。真  
 實の精神をあらはし。讀者をして覺えお歎聲を  
 發せしめたり。されど撒拉馬丁<sup>サハラマティン</sup>お一生の實行を。  
 この詩に倍して仁智の徳をあらはせり。  
 維爾孫夫人<sup>ウキルソン</sup>  
 維爾孫<sup>ウキルソン</sup>。英國の人よて。仁慈の心深く。勇氣をさ  
 へ兼ねたる婦人なりければ。非常の艱苦に堪へ



て蠢愚無道の地方より女子教育の道を閑さ。現今  
に至り東印度よりて。數多の育兒院。及女子教育諸  
會社の創立者とぞ仰ぐまゝなる。抑今と距る三四  
十年前よりありて。東印度の教育の特り男子より止  
まりて。女子より及むず。全く之を度外より置き。只僅  
より割烹の法を見慣もせ。自ら矇昧無智より安ん  
て。殆男子の奴隸の如く。政府も亦措て問もざり  
けまば。此時より當りて之より教育を施すこと。實小  
かよりと云ふべし。ざるを一千八百二十一年の  
ころ。維爾孫初て此地より至り。この状をよみて深く

歎き。いゝのであま小教育を施こしてこの陋習を  
破り。後來男子の補助者たるの實をあらはさし  
めんとおもひ。先づより孟加拉語を學びて稍  
之より通せしむ。それより人民の群集するところ  
より小移住して。試より女子の學生を募り。その出席  
するをのみを金錢を與へる之を獎勵せしむ。と  
小。生徒漸く増加しけまば。假りより一小校を設け  
て一より教育の力を竭しけり。之を初として處々  
の市街より教場を増設し。怠らず巡回して教授せ  
しむ。これ等の生徒の賞金を與へる募りしむ。





維爾孫印度の  
女子と教ふ

香山金  
繪



のなれば。極めて卑賤のものゝみ多く。隨てその  
効驗をうるおと少ふれば。更よ良地を擇び。校  
舎を建て。高等の學生を教育せんとおとひたち。  
やどなくその目的の如く。壯宏なる一校を建設  
し。これよ移りて後ち。稍高等の生徒も入學する  
ふ至りしむ。此時猶數多の婦人を雇ひて。市場よ  
遣り。女兒を誘ひ來らしめ。其人數の多寡ふ應じ  
て賃錢を與へたり。かくの如く力を盡志しむ。二  
とせ三とををえらるゝ勉學するものなく。高等の  
女兒も卑賤のものゝ惡習を見習ひて。其實効な

けきば。維爾孫が盡力の全く徒勞となりぬ。維爾  
孫をかゝる失敗をとりしむ。爲よ志を挫かず。更  
よ極めて貧困無怙の幼穉なる女兒を集め。他の  
交通をたちて惡習よ染まざらしめ。懇よ教養せ  
しむ。數月をいぞをしてその成績著るまけきば。  
これ等よ己の勤勞よよりて衣食するの道を教  
へ。盛よ毛線工をおさしめしむ。その中よハ拔群  
よ上達するものあるに至る。さうふ於て積年  
の實功をうるふ近けれど。維爾孫が居處を原と  
學校ふ充ん爲よ設けしむ。都會の中央



ありて。惡習鎖絶の目的も適ひあつた。され  
 ば更小閑静の地も占居せんおとを欲されど。當  
 時その資も乏しく。有志者の寄附金もあらざれ  
 ば。自ら奔走して資本をあつめ。加爾各搭府を距  
 るおと十四里の處に一の静地を購ひ。家屋を建  
 て高壁を繞らしておと小移り。その女兒を携へ  
 て倍之を誘導し。身自ら女兒等の模範となりて  
 之を薰陶しけり。さればその教ふる所を單に讀  
 書筆算裁縫も止まらで。その心術を端正ならし  
 めん爲よ。禮拜堂を築きて宣教師を招き。その説

教を聽聞せしむるなど心を盡し。然してこの教  
 育を受くるものい。基督教を奉ずる土人と婚姻  
 する。又も他の育兒院も從事するおと非をば。  
 退院するおとと許さず。かくて數年の後も於て。  
 此地も女子の教育盛なるおと至る。全く維爾  
 孫の偉功なり。  
 特多里蒙  
 一千八百廿五年の初おと。惡疫法國の桑破斯爾  
 古耳と云村落も蔓延して。最慘狀を極めたり。中  
 小はいていとあそきなるを。惹克克士連といへ



るい。家族十一人ありて貧しきものなりを。僅六日間、惹克ジヤク空士連クウシレンの祖母と二人の孫と。惡疫の爲、小身まかりぬるを。後一月あまりのやど小。又その母と二人の子と共に身まかりぬ。加之戸主の空士連クウシレンと四人の子と。残るも皆傳染して病牀に困コト臥ゴせり。かくの如く劇烈なるおとるべき惡疫なきは。他人をいふよ及ぶず。親族朋友比隣の者も。おそれるこの家よ近づくるものなきは。あは父子五人を扶助を請ふの望を断ち。空しく死亡を待つものなりき。此時塞列斯セレス丁特多里蒙チンテドリモン

といへる婦人。鄰郷小ありてこのよ傳へき。深くことを懼み。直に破斯爾ハクセル古耳コウキの里よ如き。里正リマサのよと小至りて。彼の五人の病者を看護せんことを請へり。里正の婦人の志の篤き小感しけるも。いとあやうき事なきは。委曲ウヰクツクよその實を謂りける小。婦人曰く。わき固より身を危険の境に陥オシるを知らざる小あらねども。さりとして眼の前よ彼の五人を棄て顧みざることあさむす。おやよそ人として眞神よ誓チカひ。人の危急を救ふんと欲するもの。一命を惜むべき小あらすとして。



婦 嬪 鏡 卷之三  
遂に空士連父子が困卧せしいときたあき家よ  
いたり。一身以て五人の病者を看護しけり。この  
後四子の内一人も遂に斃せしも。その餘に此婦  
人のあつき看護に因りて。萬死をいで、一生を  
うることをえぬ。特多里蒙婦人のかくのごとに  
陰徳を積むふといと多あるべきも。おとづるに  
世に聞えで。惟らまをけるものい。直接にその惠  
を受るしとものと。天上の神とのこちらんあり。

瑣姫

一千八百三十五年の冬。法國より寒さ例より

も酷く。爲に困苦するものいと多ありけり。偶  
麻多連瑣姫といへる婦人。野邊にいづり歸るに。  
ふとるまをい。いと壊きたる一ツ家の。さかづら鹿  
猿のふしど。の如くあまをて。中に人あるべく  
もねもまをぬを。かまのふうめく聲のするやう  
なき。密に戸のやま間より覗ひみる。一人の  
病婦ありて。息もあえぐなるが。をむく呻吟する  
なりたり。瑣姫みてあまれは覺え。内に入りて病  
婦の傍を離れず看護せしむ。やうく夜よ  
りて雪はふりしり。戸牖のやま間より寒風



ふきいりて。さむさたへうごけまば。木片など拾ひ集めてこれを焚き。さむさを禦ふんとせし。ほし乾りたる薪ならねば。こゆりて燃えおた。烟を戸内よ充ちていといふせぬ。戸外よい。餓たる狼の。人あるおとせし。内よいらんとするさまなき。その危きおと譬がふし。この時瑣姫のとならば。いふおもして。身をのぐるべきを。瑣姫いらの病婦を置いて餓狼の餌となす。おのびす。百方防禦よ力を盡し。大聲をあがて衆くの人のあるが如き形状をなし。竟よ夜あくるま

で狼をして家内よいらしめざりき。夜あけて後狼をふけ失せぬ。あつて志むしありて。病婦の曼色兒の終よ息たえぬ。是よより瑣姫を。こゝをたちさらんとおもへど。この死人をきて。おれ狼などの腹を饜り。むるをふるよとせず。近村の農家を尋ねてこれを托しける。こゝろよく諾ひし。あ。やめて跪て神の真助を謝して。さむしとど。

聚侃

契努聚侃を。法國の幹加耳と云ふ所の生おて。賤



いざよの女なりければいとわらわら頃より三塞爾萬といふ所ありて人の家より下婢となりて仕へらわ。かくておわくの家より仕ふるほど。最後より家風いと厳あふく。よに學校とも稱すべきほど此家より仕へらふ。年月を経るなごふ。その主の婦人病あわづらひく身あかりり。此時聚侃の始て意を決して。この主婦より代り務めて善行をなさんおとをねもひたちけり。かゝるやど小盲よていと貧し老婦の常より依頼せし婦人の保護人を喪ひくよるべなく。をまし冬のこと

ろ小さへあまはま。うゑらぐえく便ち此状なるをあまれ。我家よりまきあへりて恤みあまを。衣食を所まてその困苦を免せしめ。あくて又一人の寡婦を増して。三人同居するふいたま。この寡婦も曾てある家よりつらへらるが。主家不幸の秋より際して。給料をもうけざして。主の爲より勞力し。こゝ貯蓄をも抛ちて顧みむ。遂小嫁せざして寡居せる。病の爲より不具となり生業を失ひしなり。これを始りて他の不幸なる者。こゝを聚侃が仁恤の行ひあるをまき。はま。その

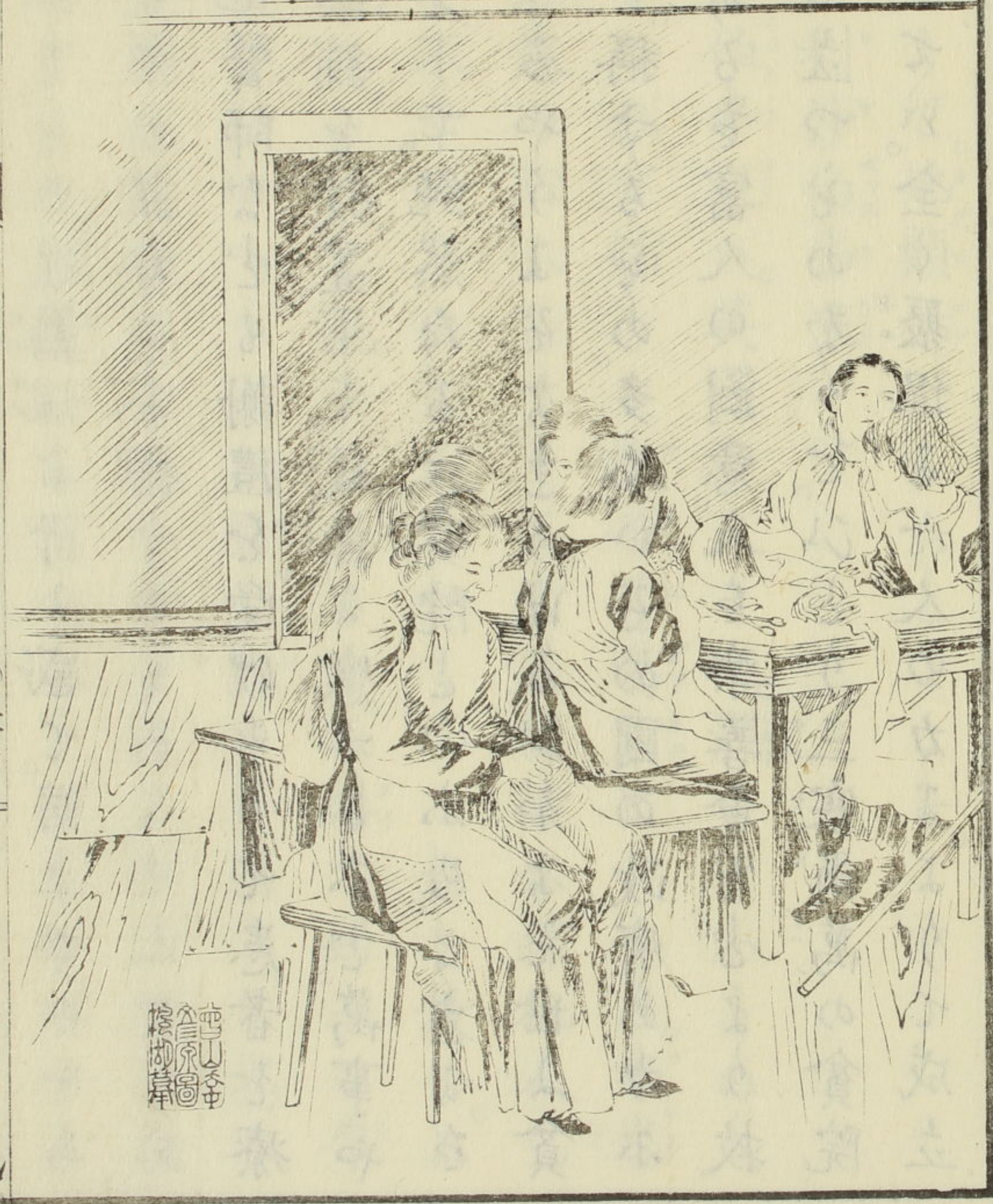


救恤を請ふことの。日よ増加しけむ。世よハ聚侃  
 お家を。やぶて救恤所となんよべ。世よハ聚侃  
 塞爾萬の地を。海氣常ハ人身を襲ひて。為ハ病歿  
 するもの數多なるハ故よ。鰥寡孤獨のよるべな  
 きものいとおわかりけ。聚侃ハこれ等の不幸  
 者を。悉くすくはんとおもへども。家隘くてこれ  
 等を置く所あらねど。ある大なる家を借りてこ  
 きよ移り。ハ此不幸者とともぐ居けるハ。僅一月  
 ばの間のほどハ。拾貳人の多きハ至む。此時あ  
 る人その行ひよめず。いと廣き家をあたへて。

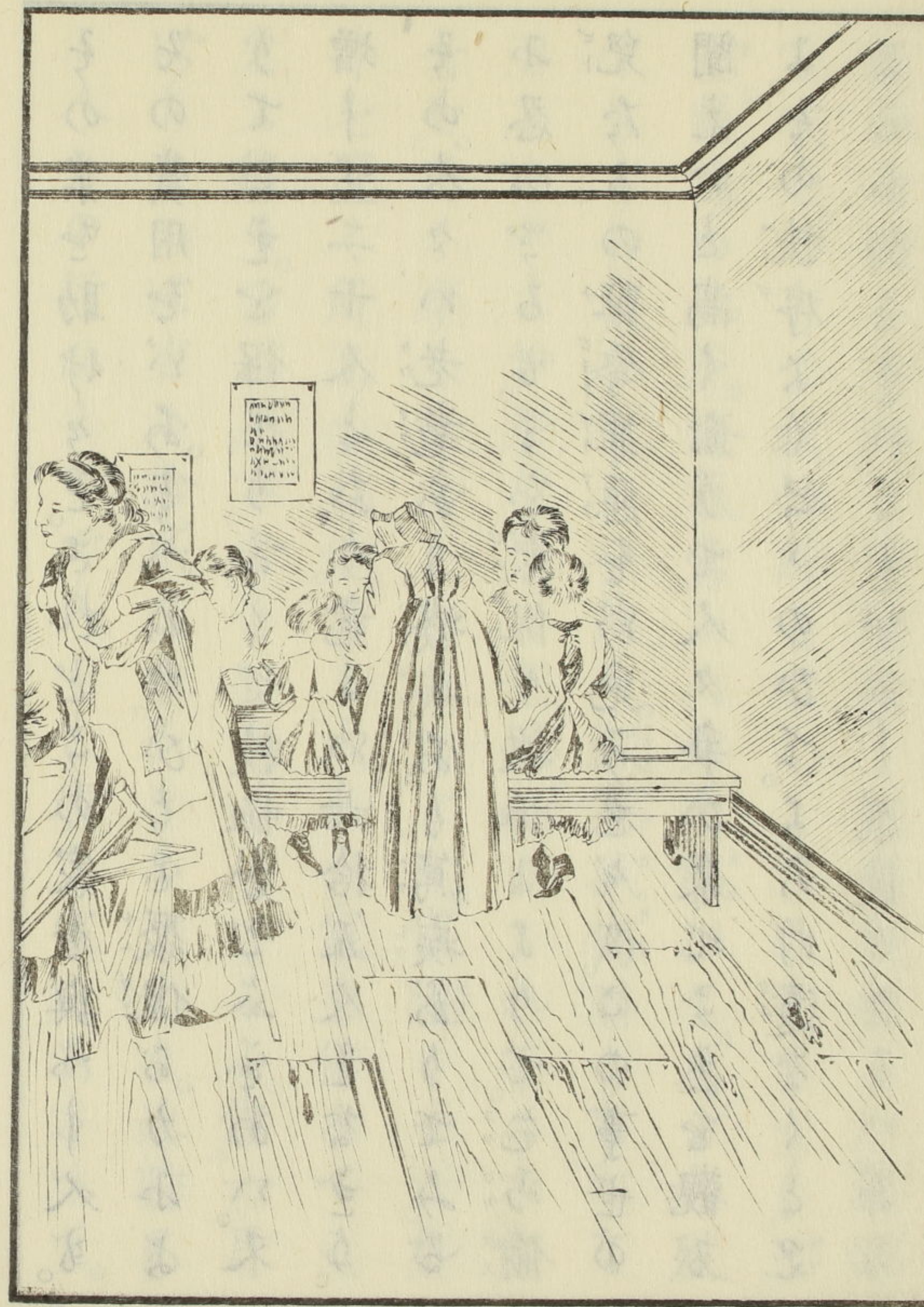
その業を助けたり。されどこの家を與へ一人も。  
 その費用をいあまへねど。ひとハ聚侃ハ力ハよ  
 りてこそを保てり。あつて救恤をこふものハ。又  
 増して二十人となり。竟よハ六拾五人となむり。  
 その人々の老耄あり。癩疾あり。篤疾ありて。みる  
 お忍びざるも。ハ聚侃ハ救恤よよりて。乞丐偷  
 兒たるの耻辱罪惡をい免むむ。この事世の  
 聞えいと高くなりて。人々争ひ來てこそを觀る  
 よ。その秩序よくととのひて。よろけ遺なくとも  
 其のおひとむ。こそをえく感歎せざるハあら



聚  
院  
幸  
を  
救  
恤  
を  
興  
不  
者  
貧  
興  
不  
者  
貧



徳山寺  
三十一  
松本





ざりけり。その後聚侃ヂユガンの行ユ感カて。同ドウトトく力をあ  
 るせ。室中の諸務を分擔ブンタンするものも。三人まであ  
 り。其他醫師なども謝禮を受けむして患者を療  
 ト。又藥舗を設置して。緩急クワンキツに應ずるおど。萬事や  
 完全して。純然たる一貧院といふも。こそよむ  
 過ぎざるやうよぞなきりける。おやよそ世よ貧  
 院など稱するもの。多くいその國の政府の力小  
 より。あるも富人の創意。又も樂善會などより救  
 恤して立つものなるを。ひとり三塞爾萬サンセルマンの貧院  
 小至りてい。全く聚侃ヂユガンの一人の力よよりて成立

一そのよて。比類ヒレイ稀ヒなるおとよこそ。  
 以利沙伯イリスアバ弗來フライ。  
 以利沙伯イリスアバ弗來フライ。英國の人よて。潤ジュンといふもの  
 女なり。これが姉を撒母耳サムエル噶業ガフエといひり。弗來フライ  
 天性仁慈の心ふあくして。常は囚徒奴隸犯人を  
 丐など。不幸のものをあまれきて。これを教へ。お  
 ぎを導ミナき。これを親ミナし。あぢ。人稱ヨドて婦人の厚ホ  
 瓦德ワイドとなむいひりける。厚瓦德ホワイドの英國よ名高き  
 仁慈の聞えある人なり。れをなり。弗來フライ幼イコな  
 わし。おどより。容儀ヨウギいとうつくしくみやびやの



小言語もその一づゝあ小爽あなり一かむ。人ごと  
よ愛せられしも。後々のやうよ仁慈をもちて。人  
よ推尊をくらむんとむ。誰ひとりこゝろづくもの  
いあらざりけり。さるを弗來いすで小此時より  
志をたてし。神聖の道を尊信し。年の長ずる小志  
たがひく仁慈を施し。篤行を積みてその名譽を  
得しなり。弗來い常よ两眼をどぢてこゝろを鎮  
め。まづあら傷むおとあらが如くまて。徐るよ人  
をさとし導き一かば。徒場の罪人無頼のよめも。  
過を改めて善良よ歸るとのいと多し。中よつき

て犯人を遇ふこと小長トけり。ある時監守の人  
弗來よ謂ひけるを。卿よ一牢獄の中よいらば。衣  
服金錢いふまでもなく。一命をも奪もるべし。  
とおどし侮りしおど。弗來いさく。かもおとる  
いろなく。獄中よいりしお。宛も兇徒等鬭争しを  
あまければ。隙を覗ひくその間よいり。いと一づ  
あ小教へ諭し。小。たちまらに和解してあ。の答  
鉄を加ふるよりも速あなりけり。あくて弗來い  
彼等をして。おのあ周圍よおき。種々の談話をな  
して良心を感發せしめ。握手して相親むの誠を



あらはし。やどなく外のかさ小出来きり。さう小  
 おいて獄吏監守等大におどろき。そのあたり但  
 以利エの獅洞よりいづるをえし。如しとぞあざ  
 みあへりける。こち但カ以利エ神通シツをえらる人なり  
 けまば。獅洞に投ぜられし。あど。恙ツなくていでし  
 里といふもの。あまのあまきなり。弗フ來ライのかく  
 の如く傑ケをうるものなりけまば。兇徒犯人もこ  
 きをえまば。獄丁監守もましておそまけり。又  
 自ら信ぶる道を求めん。為ニ法フ蘭ラン西ス荷ヲ蘭ラン德ム逸ド。  
 噠馬デン白耳マウ義普魯社等の國々を周遊シ。その幼き

時を故郷又を他郷ふても。屢レバ不慮の災難に遭アひ  
 し。あどもよく忍耐して功德を積ツむ。善行を累カね  
 て。遂ニその本國をいふに及ビむ。外國の人まで  
 もあまねくほめて。これを賞讃する小至シきり。

額黎坦林

額黎グレイ坦林タルン。英國の諾東北蘭ノースサセベルランドといふところの燈明臺  
 の監守人坦林タルンが女なり。千八百三十八年の九月  
 のころ。ホアハルスハヤといふ蒸汽船ノースサセベルランド。  
 の近海にて颶風ガクにあひ。船の製ツクり堅牢カら  
 で器械も整備トざりけまば。浪風もゆるまて遂ニ

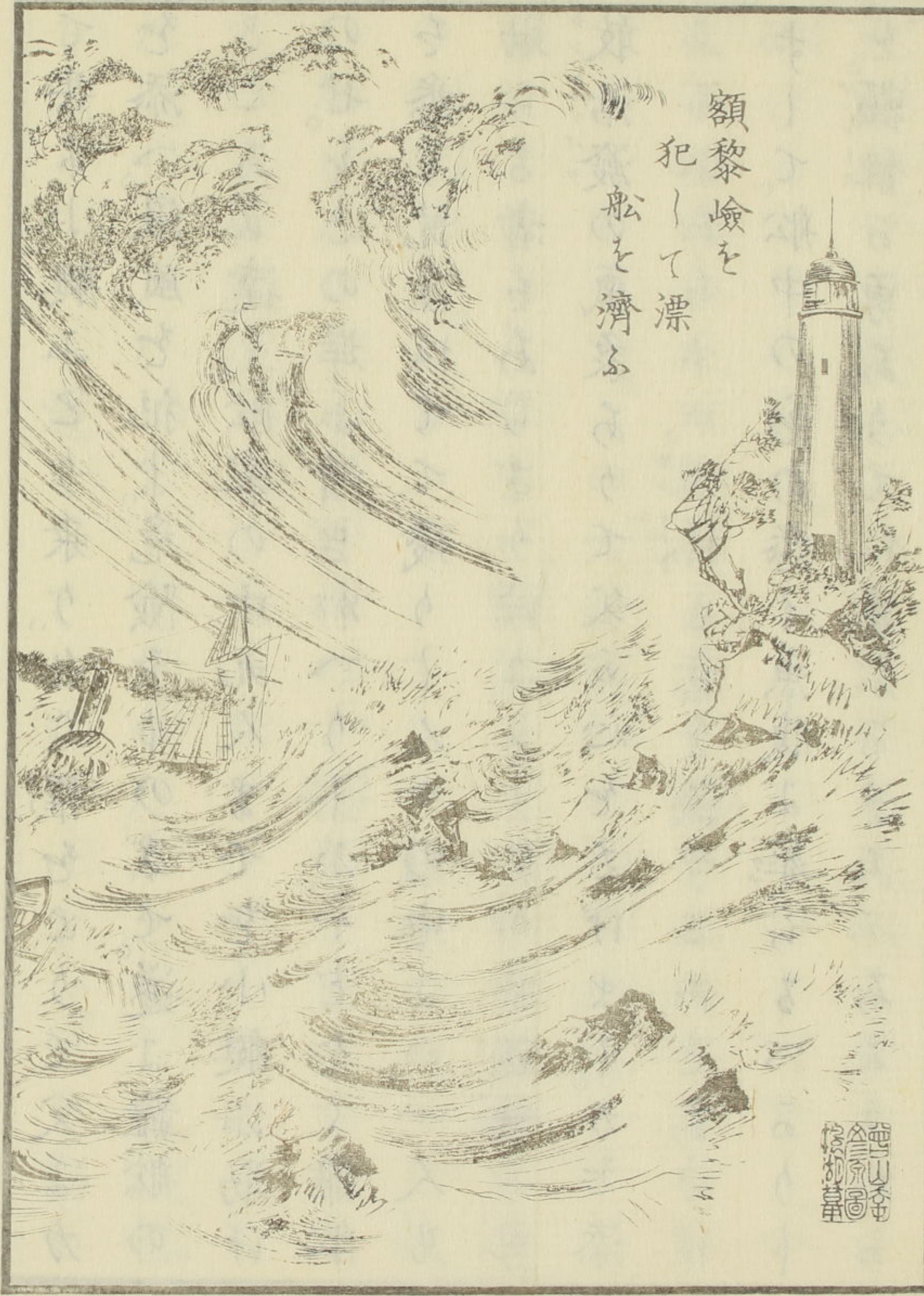


大發爾加の巖山イハヤマふきつけられ。船とおろりと  
砕けそこなされて。いゝふともせむすべなく。い  
まや船中の人々も。おとどくオボ溺れ死ぬべきのあ  
りさまなりき。この大發爾加グレイトハルカスの諾東北蘭ノクノクノのいと  
ちかきところなまじ。額黎グレイリスの父坦林タンリンもるかよこ  
の形状カタガタを見。いゝふもして。おの難船の人々を救  
ひ助けんとおまひ。所持の小艇コボネをこぎいでんと  
すれど。暴風浪を捲マキて大山のくづるゝお如くな  
れば。いゝふいせまゝとたぬたふをりし。額黎グレイリス  
も僅わずかの二十二歳むらふおまけるお。父を勧め

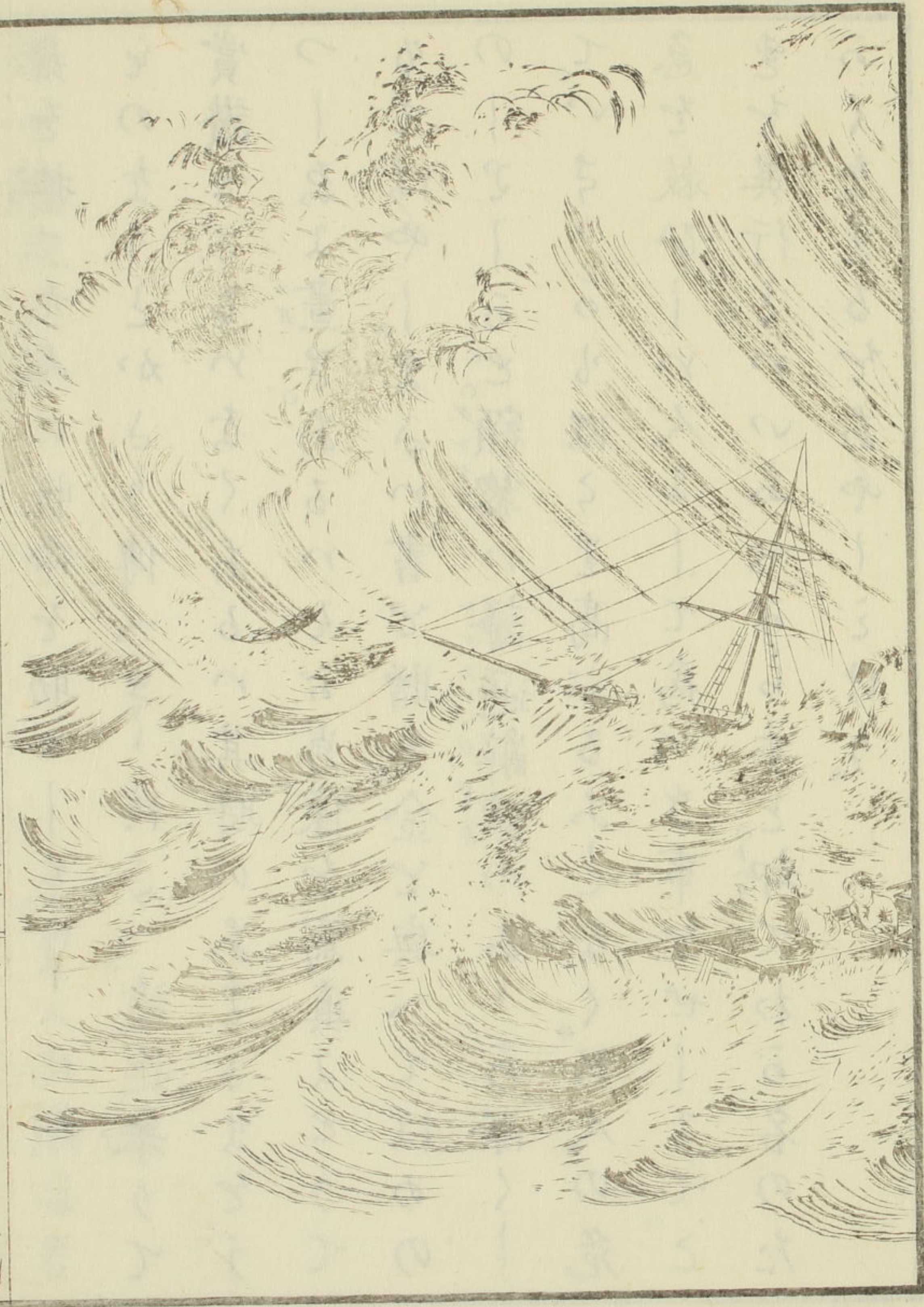
て共とも小艇おとり乗り。自らカミ櫂をとりて父ちちも力  
を添へ。浪風を犯し。危険をしのぎて。遂ついに難船の  
ところま達し。船客の中九人までを小艇お助け  
のせ。とこの岸小漕ソウぎかへりし。おどなく難船  
を悉く沈シヅまはてて。残りし人々の中なかは。一人も  
助たすめる者もあらざりけり。そゝおの時額黎グレイリスの勇  
敢カン活潑クワツパツの氣象ありて父ちちの心をまげまゝ。力を添  
ふるおあらず。咀カム林リンも意を決するおとあさは  
ずして。船中のこの悉く魚腹イサハに葬ナマらるべありし  
を。額黎グレイリスの勇ありて仁慈ニンジふらきおろより。わら



額黎嶮を  
犯して漂  
舟を濟ふ



西  
山  
香  
堂  
藏  
印





身を捨て九人の性命を助々し。實は比類なき  
 其のなりとかとり傳へき。法々へ。遠近擧りて  
 賞讃をざるのなく。あるは其時のあまさをう  
 つゝある畫き。あるはとぶ肖像を寫真よりとりて  
 もてはやし。まゝの書と贈り。金と與へてはめの  
 のしりあど。額黎の謙遜辭讓のあゝる深く  
 て。いさゝるもほろ高ぶるおとなく。只人の危  
 急を救ひし人よりて爲べき事をせしめて。こ  
 をを異行といひふべからずと。却てわが名のた  
 らくなきををあやしきけり。

婦女鑑卷三終



女  
城  
鏡  
今  
卷  
之  
三

宮  
內  
省  
之  
痛



